



第2回福祉・たすけあい事業部会 公開学習会を開催しました！

10月15日（金）に福祉・たすけあい事業部会公開学習会をオンラインで開催し、生協の役職員、千葉市社会福祉協議会のご担当者を含め24名が参加しました。

福祉・たすけあい事業部会は「居場所」を今年度のテーマとして取り上げています。「居場所」は利用者が社会や地域とつながる大切な場所です。公開学習会では、法政大学大学院



石山先生

政策創造 研究科教授の石山恒貴（いしやまのぶたか）先生をお招きして「サードプレイスを人生と地域にいかす」と題してご講演いただきました。

はじめに石山先生よりサードプレイス＝居心地の良い場所は全国でも作られているが、生協とどのように関連づけられるのか参考になるように説明していきたいと話されました。前半では、サードプレイスの概要や条件、また日本独自のサードプレイスの特徴やその成り立ちなどについての説明がありました。説明のあと、グループに分かれて「今までに自分自身が参加したサードプレイスとは？」「これから参加してみたいサードプレイスは」などのテーマで話をしました。参加者からは、「地域、趣味の活動には参加している」「作業を分担しながらみんなで畑やる場をつくりたい」「一人の時間が今は大事なので…」などの意見がありました。

後半は、日本におけるサードプレイスの様々な事例紹介と、地域にサードプレイスをどう活かすかについての話をいただきました。2回目のグループワークでは、「サードプレイスを地域、生協に活かすための課題は？」「サードプレイスを地域、生協に活かすためには？」というテーマで話をしました。参加者からは「いろいろなサードプレイスの情報を生協の配達員が伝える役割を担える」「生協だけで完結するのではなく、様々な団体と協力しあいながら場を上げたい」などの意見が出ました。石山先生からは、利用者を増やすためには、知り合いが知り合いを連れてくる口コミ力を上げることがポイントになると教えていただきました。



参加者アンケートより

- ・ サードプレイス、あればよいというものではなく、参加する人、またそれを提供する人にとっての良い場（つながりの場）となるために、色々と大切な考え方があることを知れてとても良かったです。
- ・ 一人一人参加する目的や求めるものが違って、そこに場があることでつながりが生まれ次のステップに進むきっかけになっているのだと再認識することができました。
- ・ サードプレイスは今後社協でも注目している分野でしたので大変参考になりました、事例がたくさん聞いて良かったです。
- ・ サードプレイスの背景と必要性がわかった。
- ・ コロナの終息後はおそらく人とのかかわりを持ちたいと考えている人が多いと思うので、自分にあったコミュニティをみつけて、新たな自分を発見したい。またその情報を発信したい。
- ・ サードプレイスという言葉は知っていましたが、考え方や実例、課題などを分かりやすく解説いただいて、理解を深めることができました。



参加者のみなさん